

ひょうご花き振興方策

(花きの振興に関する法律に基づく県計画)

目標年度 令和12年



兵庫県



目次

第1	はじめに	1
1	趣旨	
2	計画期間	
第2	本県花きを巡る状況	2
1	生産	
(1)	生産の現状	
(2)	生産拡大に向けた課題	
2	需要	
(1)	消費の現状	
(2)	需要創出に向けた課題	
第3	本県花き産業振興の目標	7
第4	生産振興施策	8
1	経営体や生産者組織の育成強化	
2	生産基盤の整備と経営効率の向上	
3	高品質花きの安定生産	
4	多様なニーズに応じた県産花きの安定供給	
第5	需要創出施策	10
1	花文化の継承と創造	
2	花育や花セラピー活動の推進	
3	公共施設等における花きの活用	
4	新たな需要開拓	
5	新たな価値の創出	
第6	重点品目別振興施策	13
1-1	小ぎく	
1-2	きく	
2	鉢物・花壇用苗物	
3	ストック	
4	カーネーション	
5	地域における重点品目	
第7	本計画の推進体制	31
	<参考資料>	32

第1 はじめに

1 趣旨

本県の花き生産は、高冷地から暖地まで幅広い栽培環境と消費地に近い立地を活かした中で、ひとつの産地は小さいものの多彩な品目が栽培されている。なかでもカーネーションと花壇用苗物は全国4位の出荷量を誇っている（令和元年産 農林水産省調べ）。

しかしながら、近年の国内市場における花き消費の伸び悩み、切り花の輸入増加、栽培農家の減少等を背景に、全国的に見ても作付面積や産出額は減少傾向で推移しており、本県においても同様である（平成30年／平成26年 作付面積：87%、産出額：89% 農林水産省調べ）。

このような中、花きの生産振興のためには、生産の拡大とともに花きの需要創出を図る必要がある。そこで、令和3年3月に策定された「ひょうご農林水産ビジョン2030」において、基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開を図るため、①多様なニーズに応じた高品質花きの安定生産、②県産花きの需要創出、等を図ることにより、県産花きの生産拡大を目指していくこととした。

国においては、令和2年4月21日に「花きの振興に関する法律（以下、花き振興法）」（平成26年12月策定）を推進していく指針となる、新たな「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針（以下、基本方針）」を策定した。

また、花き振興法では、県は基本方針に即し、花き産業及び花きの文化の振興に関する計画を定めるよう努めることとしている。

そこで、本県において計画策定するにあたって、「ひょうご農林水産ビジョン2030」のめざす県産花きの生産拡大のための具体的な行動計画として、「ひょうご花き振興方策（以下、振興方策）」を定めることをもって、花き振興法に基づく県計画とする。

2 計画期間

振興方策の期間は、令和3年度から令和12年度の10年間とする。

※ ひょうご農林水産ビジョン2030の計画期間

ただし、今後の県の農林水産振興施策の転換等により、花き振興の方向性に大幅な変更の必要性が生じた場合には、振興方策の見直しを行う。

第2 本県花きを巡る状況

1 生産

(1) 生産の現状

ア 栽培の状況

兵庫県は、生産歴が比較的長い産地が多いため、市場とのつながりが強い傾向があり、大消費地に近い立地条件から、小売や市場の要望に細やかに対応してきた。その結果、一品目あたりの産地規模は小さいものの、生産品目はバラエティに富んでいる。

イ 農家戸数の推移

県下の花き経営体数は、露地・施設ともに減少傾向である（図1）。また、平成27年度から令和元年度における県下の新規就農者1,386名のうち、花き経営は30名（2.2%）であり、花き生産を選択する者の割合は低い状況である（図2）。

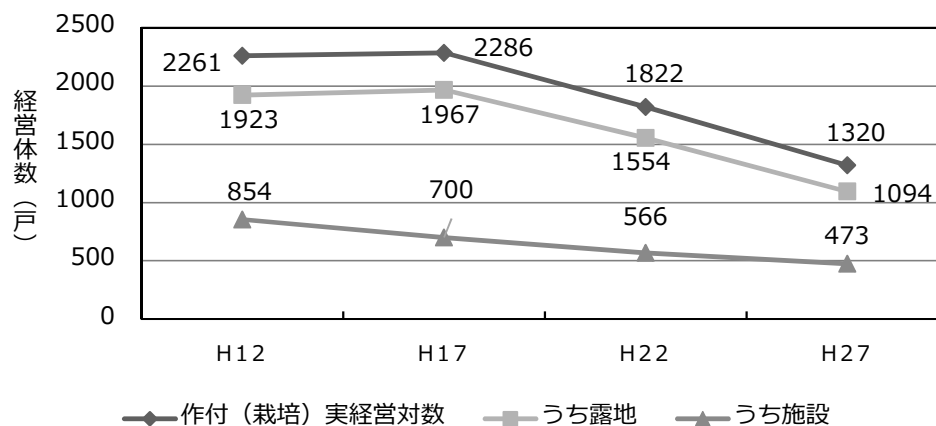


図1 兵庫県下の花き経営体数の推移（農林業センサス：H12，H17，H22，H27）

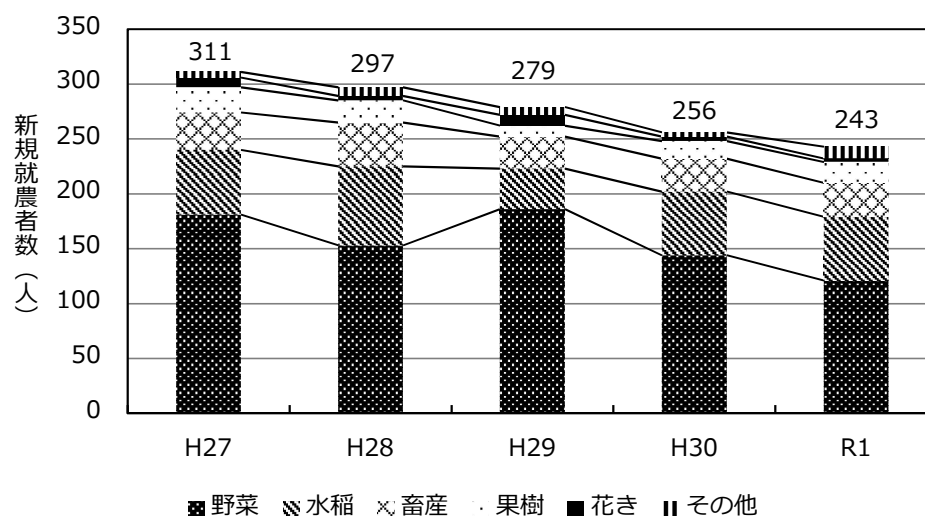


図2 兵庫県下の新規就農者数の推移（65歳未満）（農業経営課）

ウ 産出額の推移

県下の産出額は、平成 30 年産で約 42 億円であり、減少傾向である。内訳では切り花が約 5 割を占めている（図 3）。

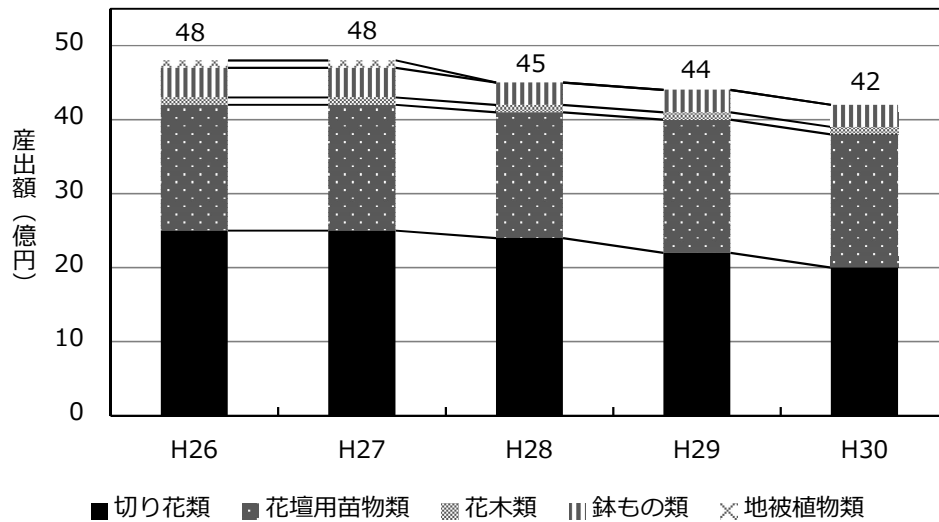


図 3 兵庫県下の花き産出額の推移（農林水産省統計）

エ 作付面積の推移

県下の花き作付面積は、平成 30 年産で 264ha であり、減少傾向である。内訳では切り花が約 7 割を占めている（図 4）。

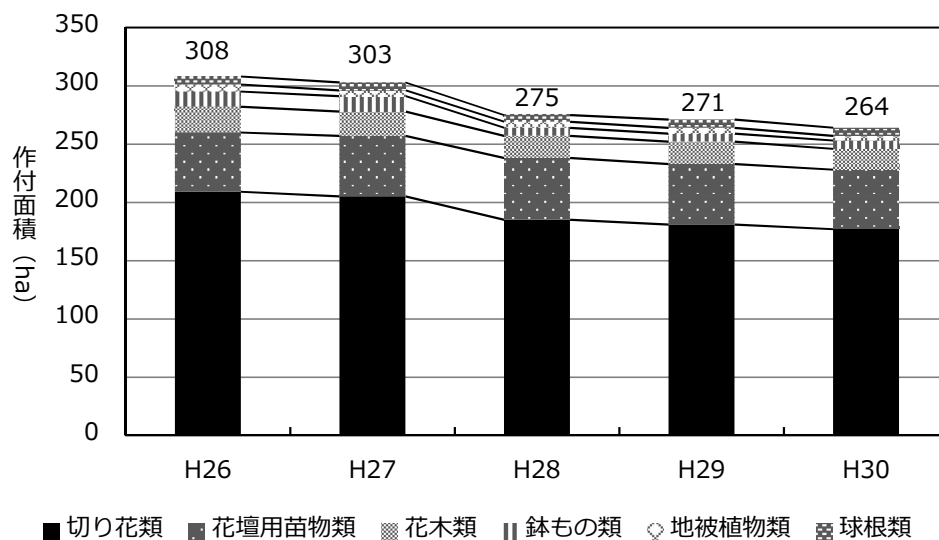


図 4 兵庫県下の花き作付面積の推移（農林水産省、農産園芸課調べ）

オ 本県の全国シェアが高い品目

カーネーションは全国4位の出荷量を誇り約9%のシェアである(図5)。特にスタンダード系品種が多い傾向にある。

〔出荷本数(令和元年産)〕

兵庫県 19,400 千本
全 国 222,700 千本

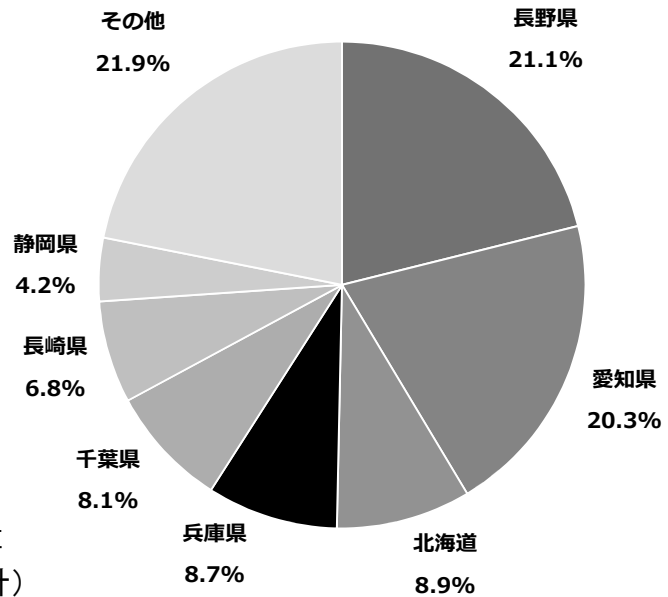


図5 カーネーション出荷量
(令和元年産；農林水産省統計)

花壇用苗物は全国4位の出荷量を誇り約5%のシェアである(図6)。特にハボタンについては本県花壇苗を代表する品目で、オリジナル品種も多く、花壇苗全体の販売額に占める割合も高い。

〔出荷鉢数(令和元年産)〕

兵庫県 27,100 千鉢
全 国 579,000 千鉢

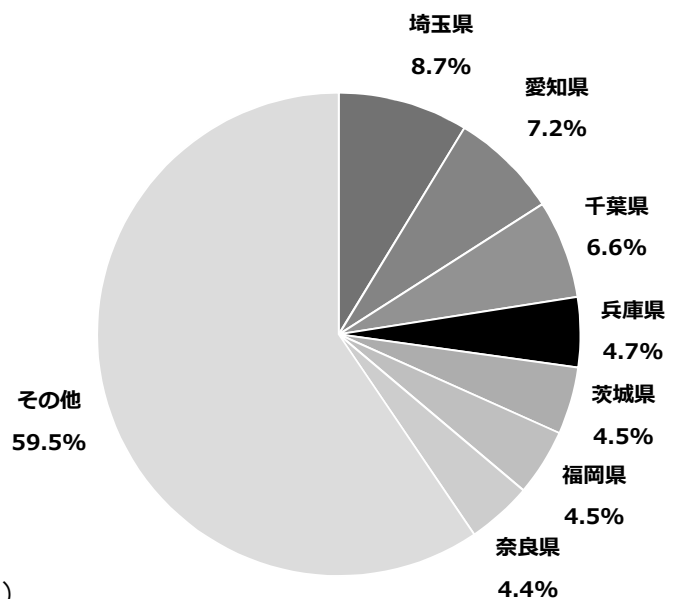


図6 花壇用苗物出荷量
(令和元年産；農林水産省統計)

(2) 生産拡大に向けた課題

ア 生産者の確保、育成

近年、花きを志向する新規就農者は少ない。その一因として、花き栽培は他の品目に比べて高い技術を要すると考えられている事が挙げられる。しかし、神戸市のシンテッポウユリ、加西市のハボタン、南あわじ市の輪ギクなど、全国的にも高い技術を誇る産地、生産者が点在しており、次世代への伝承が求められている。また、県立農林水産技術総合センター等では、高位平準、安定生産のための技術開発が行われており、機械化体系が確立されている品目もある。

そこで、生産者間の連携を密にし、産地内で後継者や新規参入者への技術伝承の仕組みを確立するとともに、新たな担い手として農業参入企業や集落営農組織等担い手を対象に、高収益作物として経営品目に導入を推進・支援することで、新規花き生産者の確保・育成を図る必要がある。

イ 経営の安定化

近年燃油等の価格が高騰し、経費が増加する一方、輸入花きの増加等により、国産花きの販売価格は伸びない状態が続いている。また、生産者の高齢化は作業効率の低下につながっている。

花き生産における低コスト化や省力化を図ることで、収益性の向上を実現させ、個々の経営の継続性を高めることが県産花きの安定供給にとって重要である。

ウ 気候変動に対応した高品質化と安定生産

近年の気候変動による夏期の異常高温等は、秋季に出荷する花きの品質低下や出荷開始時期の遅延を引き起こし、出荷量や販売額の減少につながっている。

花きの高品質化を図るためには、近年の気候変動に対応した安定生産技術の開発と現地への普及・推進が必要である。

エ 多様なニーズへの対応

花に対する実需者や消費者のニーズは、個々の色や形へのこだわり、珍しい花や新品種、出荷の時期や安定性など多岐にわたる。このような中、市場ニーズをとらえた商品でなければ産地としての流通・販売の維持継続は困難である。

多様なニーズに応じた安定的な出荷ができるよう、ニーズを捉えた花き育種を推進するとともに市場を含めた各流通業者と連携した供給体制づくりが重要である。

2 需要

(1) 消費の現状

切り花の購入金額は長期的にみて減少しており、世帯主の年齢別でみると、若年層ほど購入金額が低い傾向がある（図7）。

また、本県においては、総務省統計局の令和元年家計調査速報の県庁所在市等都市別一世帯あたり支出金額（総世帯）によると、神戸市における切り花購入金額は年間6,217円であり、調査対象52都市のうち41位であった。また、園芸用植物については1,454円で50位、園芸用品については957円で52位であった。これらのことから、全国的にみて本県における世帯の花き購入割合は低い（全国平均は、切り花：7,798円、園芸用植物：3,068円、園芸用品：3,498円）。

(2) 需要創出に向けた課題

ア 需要創出

県産花きの安定供給のためには、それに見合った需要が必要である。ひょうごの花キャンペーンをはじめとした花き業界が一体となった需要喚起の場を通じて県産花きの魅力を消費者に伝える活動が重要である。また、フラワーバレンタインなどの花を贈る機会づくりや、花き購入のきっかけにつながる「花のある暮らし」の提案をSNSやメディアを活用して、県民、特に若年層の花き購入割合を向上させる必要がある。

イ 価値の向上

日持ち性等の消費者ニーズの高い新たな価値を向上させ、日常生活における花き需要の喚起を図る必要がある。

また、花に親しんできた文化や、花によるリラクゼーション等の生理、心理的効果を幅広い世代に伝えるため、花育等の活動を推進することが重要である。

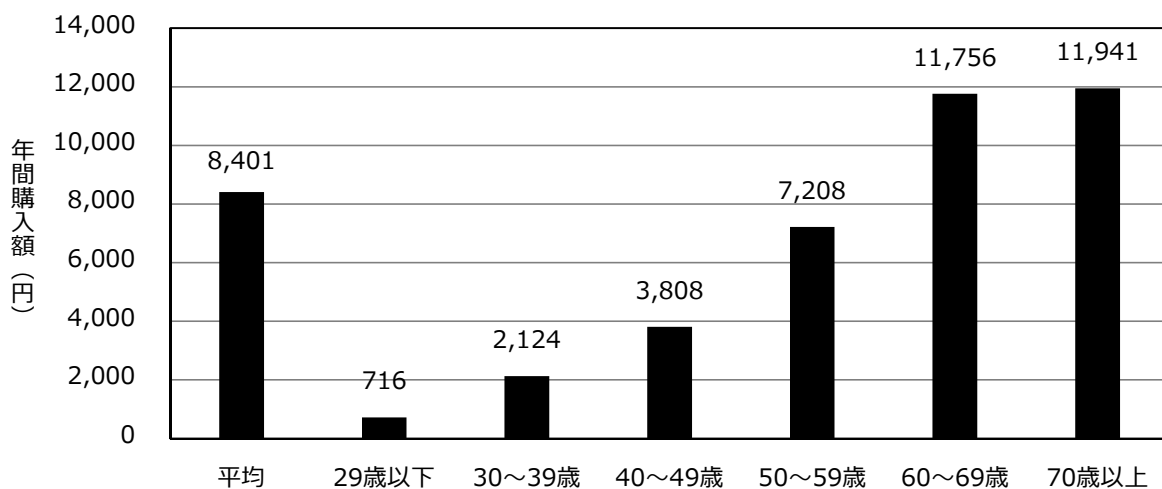


図7 世帯主年齢別年間購入額

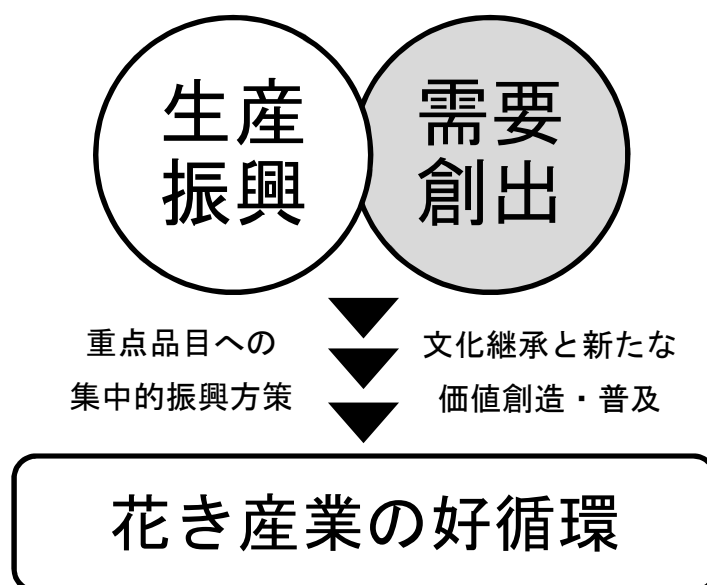
(令和元年；総務省統計局「家計調査年報」二人以上の全世帯)

第3 本県花き産業振興の目標

1 目標

県産花きの生産拡大のため、生産振興と需要創出の双方から、施策を進めることとし、その目標を以下のとおりとする。

現状 (平成30年産)	中間目標年度 (令和7年産)	目標年度 (令和12年産)
4.2億円	4.3億円	4.4億円



また、県下の多彩な花きの中から、品目を絞り集中的に施策を講じることで、その品目のモデルとなる成功事例をつくることをめざす。

そこで、県産花きの中で産出額が1億円以上で、栽培戸数が概ね40戸以上あり、かつ今後も安定した需要が期待できるきく、鉢物・花壇用苗物、ストック、カーネーションの4品目を県重点品目として位置づける。また、地域（農業改良普及センター単位）における重点品目（以下、地域重点品目）を明確にし、次代の県域重点品目とつなぐよう、地域における施策を講じることとする。

重点品目別の産出額目標を以下のとおりとする。

県重点品目	現状 (平成30年産)	中間目標年度 (令和7年産)	目標年度 (令和12年産)
きく	4.0億円	4.1億円	4.2億円
鉢物・花壇用苗物	2.1億円	2.15億円	2.2億円
ストック	1.3億円	1.4億円	1.4億円
カーネーション	6.5億円	6.6億円	6.8億円

(農林水産省、農産園芸課調べ)

第4 生産振興施策

1 経営体や生産者組織の育成強化

花き産地の維持・発展及び新規就農者を確保するため、県下の花き産業を支える担い手及び生産者組織の育成強化を図りながら、各地域の受入体制強化に向けた体制づくりを進める。

また、小ぎく等の物日需要及び国内産のニーズが高い品目については、市場や全国農業協同組合兵庫県本部（以下、全農兵庫）と連携し、参入企業や集落営農組織等も対象として、予約相対取引等に向けたコンソーシアム形成を図った上での産地育成を実践する。

主な取組み

- ・ 生産技術力の強化支援
- ・ 地域の受入体制強化に向けた体制づくりへの支援
- ・ 後継者及び新規参入者の育成
- ・ 集落営農組織や農業参入企業への支援
- ・ 耕作放棄地や空きハウスの流動化
- ・ 高校、大学等との交流機会の増進



生産者と関係者による現地研修会

2 生産基盤の整備と経営効率の向上

実需者ニーズの高い新品種の導入や、様々な新技術の導入等、生産基盤の整備等により、低コスト化、省力化、軽労化等を推進し、経営効率の向上を図る。

また、AI・IoTを活用したスマート農業技術の導入及び先進的な施設園芸拡大を図るために、補助事業等を活用した施設・機器類の整備支援等により環境制御技術の普及・拡大を推進する。

主な取組み

- ・ 研究機関が開発した新技術の導入推進
 - 実需者ニーズの高い品種の導入推進
 - EOD加温等の低コスト生産技術の導入推進
 - 光防除等の省力化技術の導入推進
 - 自動かん水等の軽労化技術の導入推進 等
- ・ 生育予測技術等のスマート農業技術の開発



センサー制御による頭上灌水

3 高品質花きの安定生産

コールドチェーン構築等の品質管理技術により、日持ち性を向上させるとともに、「日持ち保証販売制度」の導入等の付加価値化した商品づくりを支援する。

また、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を踏まえ、夏期の高温など近年の気候変動に対応した高温耐性品種の選定・導入や高温対策技術の開発・普及を推進する。

さらに、長期保管施設等を整備することにより、国内外市場への販路拡大に繋げる。

主な取組み

- ・ コールドチェーンの構築
- ・ 日持ち保証販売制度の導入支援
- ・ 高温耐性品種の選定や導入推進
- ・ 地域の気候に適した品種の選定
- ・ 根域温度制御技術等の夏期高温対策技術の開発
- ・ 貯蔵施設の整備による販路拡大



切り花貯蔵冷蔵庫

4 多様なニーズに応じた県産花きの安定供給

実需者や消費者の多様なニーズに的確に対応するために、多彩な品目・品種の新規導入を図るとともに、物日対応のための開花・出荷調節技術等の導入を進めるなど、県産花きの安定供給を推進する。

また、鉢物・花壇用苗物においては、全農兵庫が実需者、生産者、集配センター等を繋ぐデータベースサイト「兵庫の花」の構築を進めている。生産体制を強化するとともに、産地から積極的に情報を発信することで、予約相対取引率の向上を図り、生産者の経営安定に繋げる。

主な取組み

- ・ オリジナル品種及び品種育成技術の継承支援
- ・ 各種補助事業を活用した産地競争力強化
- ・ 県オリジナル品種の育成と栽培技術の確立
- ・ お盆など物日対応のための開花または出荷調節技術等の導入推進
- ・ 農業協同組合及び市場と連携した流通システムの構築



兵庫の花集配センター

第5 需要創出施策

1 花文化の継承と創造

日本の文化や伝統を花きを織り交ぜて継承するとともに、現在のライフスタイルに合わせた花のある暮らしの提案を、花き関連団体とともに進める。

主な取組み

- ・ 日本の5節句*における花きの活用推進
- ・ 既存イベントにおける花きの活用推進
- ・ フラワーバレンタインやハロウィン等へ続く新たな物日の周知推進と花きの活用推進



フラワーバレンタインの取組
(花モニュメント)

*日本の5節句 … 「人日の節句(七草の節句)」、「上巳の節句(桃の節句)」、「端午の節句(菖蒲の節句)」、「七夕の節句(笹竹の節句)」、「重陽の節句(菊の節句)」

2 花育や花セラピー活動の推進

幼い頃の花きへの関わりが将来の消費に影響することを踏まえ、家庭の中でも花きに親しむ環境が大切であることから、特に子供及び子育て世代(親)を対象にした花育の継続拡大に向けた取組を花き関連団体と推進する。

また、近年の健康志向の高まりで、花きが持つ「脳の活性化」や「ストレスの低下」、「癒やし」などの機能が注目されていることから、園芸と医療・福祉の連携による健康福祉増進に寄与する形で、花セラピーを推進する。

主な取組み

- ・ 幼児や小学生、子育て世代等を対象とした継続的な花育活動の推進
- ・ 花きの力で心を癒やす療法「花セラピー」の取組推進



花育活動の取組
(フラワーアレンジメント教室)

3 公共施設等における花きの活用

花や緑の持つ特徴、園芸作業の持つ社会的効用を活かし、屋内環境改善や良好な都市環境の形成を図るべく、花き関連団体とともに花壇づくりや壁面緑化、屋上緑化などを推進する。

また、フラワーセンター（加西市）、あわじ花さじき（淡路市）等の県立施設をはじめ、公共施設、学校、病院、福祉施設などの人が集う様々な場所において、県産花きの活用をすすめ、地域に花を根付かせる取組を実施するとともに、県産花きのPRや認知向上に努める。

主な取組み

- ・ 県立施設をはじめとした公共施設等での県産花き展示の推進
- ・ 病院、福祉施設等における花きの活用強化



県庁ロビーでの花モニュメント

4 新たな需要開拓

増大する輸入花きや産地間競争の中、オリジナル品種・技術の導入による地域の独自性を発揮した商品の開発と併せて、花き関連団体が一体となって消費者への企画・提案を行うことにより、新たな需要を開拓する。

また、様々な業界や各種イベントにおいて、積極的に県産花きの使用を呼びかけ、花きによる集客を図るとともに、異業種との連携による新しいアイデアの導入、花の使用法・シーンの拡大による新たなマーケット開拓を図る（樹木葬等新たな墓参需要に対応した花材提供のための連携強化等）。

さらに、コロナ禍での新しい生活様式の定着（在宅時間の増）に伴い、ホームユース需要は拡大傾向にあり、若い世代や男性の花き消費も増加している。これらが一過性のものとならないよう、オンラインアレンジメント教室等の活動支援や新たな供給体制（オンライン販売、異業種での販売機会等）の推進を図る。

主な取組み

- ・ 展示会開催による花きPRの強化
- ・ 県産花きの産地表示や商品情報提供等の取組の推奨及び認知度の向上
- ・ 異業種との連携強化によるアイデアの発掘
- ・ コロナ禍における新しい生活様式に対応した取組の支援



生花市場でのPR活動

5 新たな価値の創出

花き関連団体が一体となり、日持ち保証や認証制度等への取組を推進する。

また、県産花きの魅力を拡大するために、SNSやQRコード、リーフレット等を活用し、市場関係者や専門小売業、消費者への産地等に関する情報発信を強化し、新たな価値を付加することで、消費者に選ばれる花き供給をめざす。

主な取組み

- ・ 日持ち性向上対策品質管理認証制度の推進
- ・ MPS*に取り組む花き関係者の支援
- ・ 実需者に提供するプロモーションの手法づくりの支援
- ・ 県産花きの産地情報発信における取組強化
- ・ フラワープリンセスひょうごによる産地PR活動の強化



MPS（花き産業総合認証）のマーク

* MPS … Milieu Programma Sierteelt（花き産業総合認証）

花きの生産業者と流通業者を対象とした、花き業界の総合的な認証システム。花きの先進国オランダで環境負荷低減プログラムとしてスタートした。

第6 重点品目別振興施策

1-1 小ぎく

作付面積 (a)	1,949									
生産量 (千本)	4,544									
栽培農家数 (戸)	県民局 (センター)									合計
	神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	
	20	4	16	7	10	30	16	50	54	

* R1年産 各農業改良普及センター調べ

(1) 現状

- ・小ぎくは仏花などに欠かせない品目であり、その需要は盆、彼岸、年末などに集中しており、主として露地に作付けされている。
- ・市場出荷産地では高齢化が進み生産者が減少傾向にある。需要も特級品から優品に消費者用途が変わってきているが、対応した生産がなされていない。
- ・全県で推進できる露地花きとして推進しており、JAによる直売所強化の取組や集落営農組織、企業参入による取組がみられる。
- ・東加工の実需者からは廃棄部分の少ない短茎小ぎくのニーズが高まっている。

(2) 課題

■ 市場出荷産地

- ・夏期の高温で開花期が安定せず、白さび病やスリップス、ハダニ等の微小害虫の発生が多くなっている。
- ・生産者の高齢化や労力不足に伴い、省力機械の導入が望まれている。

■ 新規生産者及び集落営農組織

- ・需要期（盆、彼岸）に開花する産地に適した品種が不明で、露地で実用的な開花調節技術は少ない。
- ・直売所出荷向け及び小規模生産者に対する種苗供給体制が整備されていない。

(3) 具体的な取組内容

■ 生産技術の高位平準化（市場出荷産地及び新規生産者等共通）

- ・需要期に供給できる露地電照（LED）開花調節技術の導入
- ・白さび病（UV-B照射、温湯消毒）、スリップス等難防除病害虫対策の徹底
- ・省力機械化体系（移植機、出荷調整に係る機械等）の確立
- ・短茎小ぎく生産技術の確立（施肥・うね立て機、移植機、ブームスプレーヤー等）

■ 新規生産者及び集落営農組織の育成

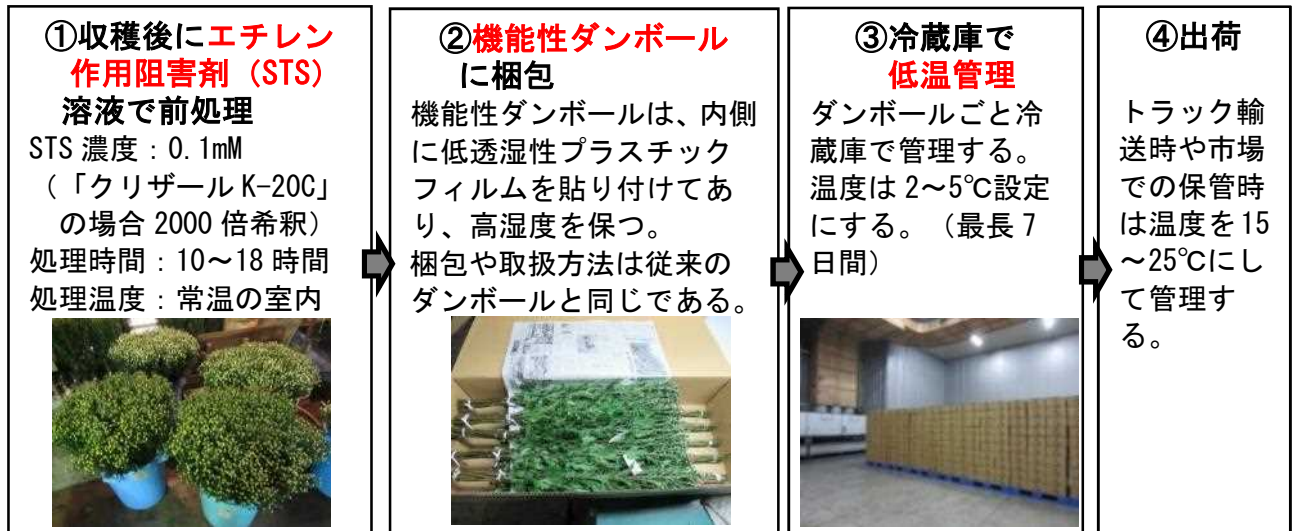
- ・優良種苗の選定（推奨品種の品種特性把握と情報提供）
- ・苗安定供給体制の確立（安定生産に向けた苗生産農家の確立）
- ・新規生産者の受入体制整備や技術伝承の推進
- ・流通体制の整備（県内市場集荷輸送ルート整備）

★新技術紹介

『収穫後の品質保持処理と低温管理を組み合わせた出荷調節』

小ぎくは盆や彼岸など特定の日（物日）に合わせた出荷が求められます。そこで、①品質保持処理後に②機能性ダンボールと③低温管理を行うことで収穫後の品質を維持したまま、最長7日間出荷日を調節できます。

作業手順



執筆：水谷 祐一郎（農林水産技術総合センター農産園芸部主任研究員）

★現地情報

『赤色LEDによる開花調節』

丹波市山南町では開花調節技術の1つとして、平成30年度から赤色LEDを用いた開花調節を行っています。従来の電照栽培で用いられていた白熱電球よりも導入コストは約10倍と高くなりますが、消費電力が約1/10、耐用年数が20倍以上と長期的に見るとコスト削減につながります。

現地での実証試験においても、非電照の慣行区と比較すると需要期に合った出荷割合が高くなりました。しかし、近年の気候変動により開花期が前後することが多く、電照だけでは需要期に合わせる 것이難しいです。今後は電照に加えて、エテホン液剤やジベレリン液剤、つぼみ切り技術などを用いた開花調節技術を併用することで、気候変動に対応した開花調節技術の確立をめざします。



赤色LED導入ほ場

執筆：野喜 亮祐（丹波農業改良普及センター）

1-2 きく

作付面積 (a)	3,796									
生産量 (千本)	8,991									
栽培農家数 (戸)	県民局 (センター)									合計
	神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	
	20	5	17	42	10	30	16	50	101	

* R1年産 各農業改良普及センター調べ きく全体農家数 (小ぎくを含む)

(1) 現状

- ・南あわじ市灘地区の冬場の主力品種「花秀芳」は市場から高い評価を得ている。また、平成29年から花色の鮮やかな枝変わり品種「秀の極」を生産している。
- ・神戸市山田地区の「二輪ぎく」など、ニッチな商品群もある。
- ・古くからの産地では高齢化が進み、生産者が激減しているが、但馬地域では、新規参入企業等の取組もある。

(2) 課題

- ・既存産地での、高齢化に伴う急速な生産者減少を補完する新規栽培者の確保
- ・夏期の異常高温に伴う奇形花発生や開花遅延、害虫による商品化率低下を回避するための技術開発及び導入
- ・燃油、資材等の価格高騰に対する省エネ・低コスト化対策
- ・出荷量減少に対応するための新たな輸送便確保や出荷システムの構築

(3) 具体的な取組内容

■ 産地維持の取組

- ・健全種苗の供給支援 (薬剤感受性検定、ウイルス感染防止対策)
- ・新規栽培者の確保支援 (産地ビジョンづくりと新規栽培者育成の取組)
- ・既存集出荷体制の維持と新たな配送システムの構築
- ・産地オリジナル商品の維持、継承 (商標・種苗登録、オリジナル品種のカタログづくり等)

■ 省エネルギー技術、省力化技術等の導入

- ・内張カーテンの多層化、EOD加温、ヒートポンプ、LED電照技術等の省エネルギー技術の普及、日射制御型拍動灌水等の省力化技術の導入
- ・低、高温耐性や省力化等に優れた品種の選択、導入
- ・収穫後の鮮度保持技術による日持ち性の向上

★新技術紹介 (きく)

『つぼみ期収穫切り花の開花調節技術』

きくを開花前のつぼみの状態で収穫し、専用の開花液と開花室での温度管理によって、特定日に開花させて出荷することができます(図)。開花液は表の組成からなります。開花室はエアコンや白色蛍光灯を設置可能な場所で、作業場を仕切ってもかまいません。温度は15℃～30℃の範囲で正常に開花します。20℃～25℃で開花が促進され、20℃より低いほど、もしくは25℃より高いほど開花が遅くなります。

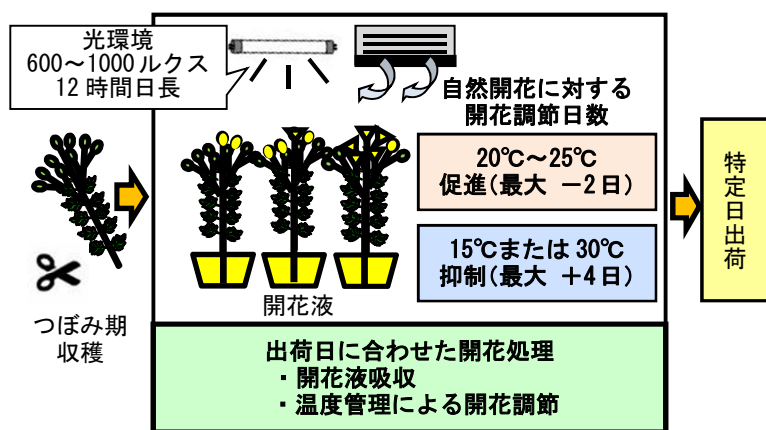


図 収穫後の開花調節技術の流れ

執筆：水谷 祐一郎（農林水産技術総合センター農産園芸部主任研究員）

表 小ギクの開花液（10 ℓ）の作成例

組成	商品例	開花液10 ℓ 当たりの量	効果
糖	上白糖	300 g	花を大きく多く咲かせる
エチレン作用阻害剤 (STS)	クリザール K-20C	1.5 ml	葉の黄変を防ぐ
抗菌剤	クリザール ブースター	1.5 ml	開花液の腐敗を防ぐ
界面活性剤	グラミンS	1.5 ml	開花液の吸収を促進する

★現地情報

『あわじ島農業協同組合オリジナル赤色系大輪ぎく「秀の極（しゅうのきわみ）」』

南あわじ市灘地区は全体の8割以上を赤色系大輪ぎくが占める産地で、年間を通じて生産・出荷しています。従来の秋冬の主力品種であった「花秀芳」は開花後の退色が課題となり、課題解決のため生育中のショ糖葉面散布や収穫後ショ糖処理の対応を行っていました。平成25年、非常に赤色の濃い枝変わりを発見し、平成27、28年に普及センターとあわじ島農業協同組合灘花卉部会は連携してこの枝変わりの特



園地巡回で栽培状況確認



秀の極

性調査を行いました。その結果、従来品種と比較して秀品率はほぼ同等であり、ゆっくり開花するため日持ち性が良くなり開花後も退色せず濃い赤色を保つことから、出荷市場にも高く評価されました。

平成29年度から、この「秀の極」を秋冬の主力商品として本格的に出荷を開始し、現在も実需者から好評を得ています。秀の極は産地オリジナルで、あわじ島農業協同組合灘花卉部会（6戸）では、「淡路島のレッドダイヤモンド」として全国にPRしています。

執筆：石上 佳次（南淡路農業改良普及センター）

2 鉢物・花壇用苗物

作付面積 (a)	3,784									
生産量 (千鉢)	27,522									
栽培農家数 (戸)	県民局 (センター)									合計
	神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	
	15	9	8	16	7	27	9	6	7	

* R1産 各農業改良普及センター調べ

(1) 現状

- ・ガーデンシクラメン、ハボタン、アルテルナンテラなどで独自ブランドを展開している。
- ・燃油削減や生育促進を目的にEOD加温技術を一部で導入している。
- ・独自の商品構成（シリーズ化）やオリジナル品種で差別化を図っている。
- ・市場への販売ではセリ比率の多い経営もみられる。
- ・生産者、販売店双方でSNSを活用した情報発信が加速している。
- ・地元量販店や園芸専門店とのコラボレーションによる商品提案や開発の動きがある。

(2) 課題

- ・温暖化と異常高温による生育不良、葉色不良（再緑化）等の品質低下防止対策
- ・燃油、資材等の価格高騰に対する省エネ・低コスト化対策
- ・生產品目別のEOD加温導入効果、LED照射効果の整理
- ・環境モニタリングによる開花（出荷）予測等の研究データ蓄積
- ・販売における注文・予約比率の向上
- ・新品种や独自ブランド商品の情報発信力強化
- ・個々の農家の販促と連動した戦略的な県産花きPR事業

(3) 具体的な取組内容

■ 環境制御等省力化技術の導入

- ・EOD技術（加温、LED電照）による省エネ・開花促進技術の普及推進、効果確認
- ・暑熱対策を兼ね備えた底面給水システム、根域温度制御技術の開発
- ・低、高温耐性や省力化等に優れた品目、品種の選択と導入推進、栽培技術確立
- ・スマート農業技術による生産管理技術の開発、普及

■ 予約相対取引の推進

- ・生産者育種等の支援、オリジナル商品の実需者への利用促進PR
- ・市場や量販店と連携した農家のプロモーション活動実践支援

■ 新たな需要喚起

- ・花育や寄せ植え教室等での消費拡大と、新たな顧客層の定着支援（園芸初心者フォロー）
- ・園芸店と連携した県内（地元）生産者ブースの設置

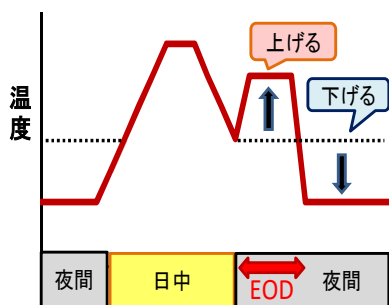
【トピックス】(鉢物・花壇用苗物)

★新技術紹介

『EOD加温を利用した省エネ暖房技術』

日没直後の時間帯 (End of Day=EOD) に数時間、施設内の温度を上げることで、その後は夜間の低温管理が可能となります。本技術では4段サーモスタットを既存の暖房機器に接続して各時間帯の温度を制御することで、これまでと同等の開花・生育を確保しつつ、暖房コストを削減できます。

EOD加温が適用できる品目と温度管理方法
(慣行：夜間 16℃一定加温)



EOD加温の温度管理



4段サーモスタット

温度管理	品目	暖房コスト (慣行比)
EOD 18℃ (1.5時間) → 13℃	サルビア・コッキネア	74%
EOD 18℃ (3時間) → 13℃	ガーベラ	78%
	ピンカ	
	サルビア・ファリナセア	
	サルビア・スペルバ	
	カリブラコア	
	球根ペゴニア	
	ブーゲンビリア	

執筆：水谷 祐一郎 (農林水産技術総合センター農産園芸部主任研究員)

★現地情報

『EOD (日没後) 加温技術の導入による燃油量削減』

養父市では、花壇苗農家3戸で低コスト化技術として、EOD加温技術が導入されています。

EOD加温技術は日没後3時間、慣行の夜間設定温度より5℃高く設定し、それ以降は設定温度を5℃低く温度管理することで、燃油量の削減と慣行に近い生育を保つ事を目的に実施されています。

養父市の花壇苗農家では、令和元年度に「県花づくり推進事業を活用」し、4段サーモスタット装置を既存の暖房機に設置しEOD加温を実施しています。

現在、約2,000㎡で、冬から春出荷の品目(ローダンセマム、オステオスペルマム、デルフィニウムなど)を中心に、EOD加温技術を用い、約20%の燃油量の削減を行いました。



4段サーモスタット装置設置状況

執筆：大中 博文 (朝来農業改良普及センター)

3 ストック

作付面積 (a)	645									
生産量 (千本)	1,638									
栽培農家数 (戸)	県民局 (センター)									合計
	神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	
	12	4	2	3	1	1	5	0	18	

* R1産 各農業改良普及センター調べ

(1) 現状

- ・アイアン系品種を中心に栽培している。
- ・淡路地域では、あらせいとうの会（淡路市）が行っているオリジナル品種『淡路シリーズ』について、淡路農業技術センター及び普及センターが採種活動への協力や技術指導を行っている。
- ・遠赤色LEDや植物成長調整剤による年内出荷技術、二期作のトンネル栽培とオリジナル晩生品種の栽培を取り入れて、作期の拡大と品質向上を図っている。
- ・神戸地域では、直播や黄色蛍光灯による夜蛾類防除技術、植物成長調整剤による年内出荷技術を取り入れ、省力化や作期の拡大に努めている。また、トルコギキョウなど、他品目と組み合わせた作付けも実践されている。
- ・無加温施設で栽培可能なため、直売用品目として各地で栽培されている。
- ・コロナ禍で冠婚葬祭をはじめとした業務需要が減少している。

(2) 課題

■ 生産

- ・遠赤色LED照射による生育促進技術の普及
- ・大規模農家を中心とした自動灌水の普及
- ・無鑑別品種導入による省力化

■ 販売

- ・開花予測技術の開発による天候に対応した出荷時期やピークの予測

(3) 具体的な取組内容

■ 安定生産技術等の導入と生産者の拡大

- ・開花調節（遠赤色LED）、省力栽培技術（自動灌水等）の確立、普及
- ・無鑑別品種の導入、拡大
- ・実需者ニーズに応じた新品種の導入検討と直売所向け品種の特性把握
- ・他品目と組み合わせた作付け体系の確立及び導入推進

■ 販売対策

- ・産地信頼度向上をめざした市場への出荷時期、出荷量情報の発信
- ・市場を通じた予約相対取引の推進

4 カーネーション

作付面積 (a)	1,103									
生産量 (千本)	15,142									
栽培農家数 (戸)	県民局 (センター)									合計
	神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	
	4	1	1	0	0	0	0	0	54	

* R1産 各農業改良普及センター調べ

(1) 現状

- ・兵庫県の令和元年産出荷量は、全国4位で都道府県別割合は約9%である。
- ・スタンダード系統が主体で色別では赤品種の多い産地として認識されている。
- ・輸入増加や需要の多様化等の要因で、市場卸売単価は安値安定傾向である。

(2) 課題

■ 生産

- ・燃油等の光熱費、種苗費、資材等の価格高騰により生産者の所得率が低下し、経営継続が困難な生産者が見られ、生産性や品質の向上及び低コスト化が必要
- ・夏期高温の影響による、萎縮叢生や立ち枯れ、秋一番花の収穫遅れや品質低下（切り花の軟弱化）
- ・スプレーカーネーションでは花房形成異常が発生

■ 販売

- ・生産者減少傾向の中で、個撰、グループ共撰が根強く、産地全体としての栽培計画及び出荷調整、販売計画ができていない。
- ・市場セリ方式の変更等により国産物が再評価される中、SDGsの取り組みと産地PR活動がより求められている。

(3) 具体的な取組内容

■ 環境制御技術等の開発と普及

- ・冬季はEOD加温、炭酸ガス施用等の生育促進・増収技術を、夏期はヒートポンプ等による昇温対策技術を確立し、普及を推進する。
- ・燃油節減対策として、内張カーテンの多層化やヒートポンプ等の省エネルギー型暖房機の導入を推進する。

■ 経営規模拡大志向農家の育成

- ・各種施策等を活用し、若手生産者の経営基盤確立を支援する。
- ・空き温室の有効活用や雇用の導入による規模拡大を支援する。
- ・全国の先進的農業者並びに市場との情報交換を推進する。

■ 有利販売に向けた対策

- ・有望品種の検討、作型・日持ち性向上技術等を確立し、SDGsの取組や情報交換会開催等で市場や新たな顧客への積極的なPR活動により、販路開拓を支援する。

★新技術紹介

『冬季の炭酸ガス施用でカーネーションの切り花品質を改善』

近年、業務用需要に適した赤系カーネーションを周年安定した品質で出荷することが求められていますが、冬季の施設栽培では側窓閉鎖で炭酸ガス(CO₂)が不足し、光合成が不十分になり品質が低下することが危惧されてきました。そこで、光合成および生長を促進するため、冬季にCO₂施用を行ったところ、切り花重等の品質改善効果が認められました。

炭酸ガス(CO₂)の施用

12月下旬から朝7時頃から2時間おきに15分ずつ5回施用。その他は無施用と同じ。



灯油燃烧方式CO₂発生装置

表 カーネーション「エクセリア」へのCO₂施用が切り花品質に及ぼす影響

収穫時期	試験区	切り花重(g)	茎径(mm)
3月上旬	CO ₂	44.0	5.3
	無施用	37.1	4.8

3月頃の切り花のボリューム感が増すことが分かったことから、現在この技術を現地で実証しており、今後の産地のブランド力強化が期待されます。

執筆：東浦 優 (淡路農業技術センター農業部 主任研究員)

★現地情報

『増収効果をねらったEOD加温の活用』

カーネーションは、施設栽培で6～7月に定植し、11月下旬頃から夜間暖房をして秋から母の日にかけて連続出荷していきます。これまで夜間一定温度の暖房が主でしたが、近年の研究により、日没後3～5時間に好適夜温(10～15℃)以上の17℃に加温(EOD加温)し、その後10℃程度で管理することで採花本数が増加することがわかりました。研修会等で技術普及を推進し、現在、淡路島内生産者54戸中17戸が先駆的に取り組んでいます。



効果検証のため現地巡回

北淡路普及センター管内では、淡路農業技術センターと協力して現地実証ほを設置し、本技術のより詳細な効果確認を行っています。令和元年度の実証結果では、EOD加温の効果である二次側枝の到花日数が短縮することで、4～5月採花本数が慣行栽培に比べ62%増加し、秋からの栽培期間を通して13%の増収が確認できました。今後、本技術を継続実証することでEOD加温技術を確立し、更なる普及を推進していきます。

執筆：藤田 知樹 (北淡路農業改良普及センター)

5 地域における重点品目

【神戸農業改良普及センター管内（神戸市）】

品目名	シンテッポウユリ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	1,055千本	126,000千円	12戸
重点品目 選定ポイント	淡河のシンテッポウユリは独自の系統育成により、市場から高い評価を得ている高収益作物である。部会の担い手育成も積極的に行われ、後継者や新規生産者の就農により栽培面積が維持されている。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	1,100千本	12戸（1戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	栽培面積の維持	① 後継者、新規生産者の確保 ② 新規栽培者の技術習得支援	
	収益性の向上	① 病虫害防除対策の確立 ② 暴風対策の確立	
	ブランド化の推進	① 独自系統の維持体制確立 ② 市場等と連携した需要拡大活動	

品目名	チューリップ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	380千本	30,000千円	5戸
重点品目 選定ポイント	淡河のチューリップは市場の評価も高く、シンテッポウユリとの複合経営品目として重要である。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	380千本	5戸（1戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	収益性の向上	病虫害防除対策の確立	
	ブランド化の推進	市場等と連携した需要拡大活動	

品目名	トルコギキョウ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	182千本	29,400千円	14戸
重点品目 選定ポイント	若手生産者を中心に秋冬出荷トルコギキョウの栽培技術が確立され、ほぼ周年にわたる出荷が可能な品目となった。様々な需要に対応できる品目であり、販売価格も比較的安定している。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	182千本	14戸（1戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	収益性の向上	① 病虫害防除対策の確立 ② 夏期の施設環境改善 ③ 低コスト栽培技術の普及 ④ 芽整理技術の習得	
	ブランド化の推進	市場等と連携した需要拡大活動	

【阪神農業改良普及センター管内（宝塚市上佐曾利、下佐曾利ほか）】

品目名	ダリア（球根・切花）		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	600千球 187千本	45,000千円 15,000千円	13戸 6戸
重点品目 選定ポイント	球根は国内シェアの4割以上を占める国内一の産地である。切花販売額も増加しており、イベント装飾用としての需要も開拓してきた。反面、施設の老朽化や土壌病害等、歴史ある産地が故の課題が多く、生産者の高齢化も進んでいる。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	700千球、200千本	13戸、7戸（0戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	病虫害防除	① 土壌病害対策の確立 ② 適期防除による切花の安定生産 ③ ICT等を活用した共同防除体制の検討	
	後継者の育成	① 担い手育成支援制度の整備 ② 作業環境の改善	
	加工品開発	① 魅力ある商品開発への支援	

【阪神農業改良普及センター管内（宝塚市、伊丹市、三田市、猪名川町）】

品目名	コンテナ生産植木・花木類・グラウンドカバープランツ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	300千鉢	—	33戸
重点品目 選定ポイント	日本3大産地の宝塚市山本地区を中心として歴史ある植木生産地での新たな需要創出により生産の活性化を図り、公共需要に頼らない、周年出荷、個人需要に対応したコンテナ生産販売をすすめる。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	300千鉢	30戸（2戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	新たな利用方法の提案 鉢物に合う樹種、品種導入	植木、花木類の鉢物化など新しい仕立方法や生産技術の開発、有望樹種や品種の検討	
	ホームセンター、ガーデンセンター等への販路開拓	ホームユースに向けた高品質な生産体系の研究と提案体制づくり	

【阪神農業改良普及センター管内（川西市若宮）】

品目名	切枝・花木		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	700千本	45,000千円	6戸
重点品目 選定ポイント	市場、仲卸等流通業者との強い結びつきのもと、黄金ひば、サツマシギ等の売れ筋商材を核にして花木、実物等200以上のアイテムを周年出荷しており、全戸で後継者が残っている。しかし、栽培地が斜面で、作業動線が脆弱である等生産条件の整備が必要である。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	700千本	6戸（0戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	きつい斜面での作付で収穫や管理作業が重労働 自然災害に弱い	① 農道等の整備推進 ② センシング技術等の活用検討 ③ ICTを含む機械化等軽労化推進	
	生活様式の変化による仏花、流儀ものの消費減退	① 新樹種、品種への切替推進 ② 廃木の適切な処分策の検討	

【姫路農業改良普及センター管内（福崎町）】

品目名	ツノナス		
現状 (H30 年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	1.5 千本	300 千円	6 戸
重点品目 選定ポイント	県下唯一の産地であり、競合産地が少なく、直売所における需要も底堅く、地域の品目として定着している。		
中間目標 (R7 年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	1.5 千本	6 戸（0 戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	新規栽培者の確保	① 新規栽培者の掘り起こし ② ベテラン農家の技術を活かした栽培マニュアルの作成	
	栽培技術の改善と伝承	① 現地巡回勉強会 ② 病虫害防除体系の改善	

【豊岡農業改良普及センター管内（豊岡市）】

品目名	グラウンドカバープランツ		
現状 (H30 年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	395 千ポット	23,700 千円	7 戸
重点品目 選定ポイント	昭和 54 年から生産されている但馬地域の伝統的な品目であり、生産額も多い。また、但馬地域の低日照・多雨な気候に合った品目である。万博などの開催により需要の増大が見込める。		
中間目標 (R7 年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	500 千ポット	8 戸（1 戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	出荷量の増加	① 実需者のニーズに合わせた品目の生産拡大 ② 商品化率の向上	
	生産量の強化	① 後継者の確保と育成 ② 省力化技術の推進	

【新温泉農業改良普及センター管内（香美町・新温泉町）】

品目名	グラウンドカバープランツ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	280千ポット	15,400千円	8戸
重点品目 選定ポイント	天候に左右されにくく、歴史あるグラウンドカバープランツの生産振興を図る。若手の後継者を育成していく。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	350千ポット	8戸（0戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	良品生産技術の向上	① 肥培管理の徹底 ② 母樹の適正管理	
	生産者の確保	若手後継者の育成	
	収益性の向上	需要にあった品目の生産拡大	

【朝来農業改良普及センター管内（養父市）】

品目名	リンドウ（切花）		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	17千本	700千円	3戸
重点品目 選定ポイント	(株)姫路生花卸売市場が、特例農業法人「やぶの花」を設立し平成27年度から切花生産を開始。本取組を核とし、中山間地域の気候を活かした新たな産地育成を図る。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	30千本	5戸（2戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	栽培面積の拡大 高温障害対策による収量・品質向上	① 新規栽培者の確保 ② 省力栽培管理技術導入（病害虫防除、施肥等） ③ 早生品種への転換	

【丹波農業改良普及センター管内（丹波市・丹波篠山市）】

品目名	若松		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	1,500千本	75,000千円	26戸
重点品目 選定ポイント	丹波市は全国3大産地（丹波、波崎、小田）の1つで、丹波市を代表する枝物である。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	1,500千本	26戸（1戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	枯れ症状被害（立ち枯れ、枝枯れ）の対策による生産効率の向上	枯れ症状被害の原因解明と対策	
	安定的な種子確保	① 地域全体による自家採種システムづくり ② 新規種子購入先の掘り起こし	
	需要の変化（小型・低価格など）に合わせた生産体系の確立	① 小型・低価格化に対応できる栽培方法の検討 ② 生産ロットを大きくする共同出荷体制の整備（契約出荷）	

品目名	ホトトギス		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	100千本	6,000千円	13戸
重点品目 選定ポイント	丹波市の特産で他に産地もなく、今後も安定的な需要が見込める。従来は門外不出であったが、現在は生産者の高齢化のため市内全域に栽培を広げて産地を維持する方針になった。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	100千本	13戸（0戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	後継者の確保	若手生産者への生産拡大	
	作業の省力化	栽培方式の改良、省力機械導入推進	
	病害対策による出荷率向上	栽培方式の改良、防除体系の検討	

品目名	グラウンドカバープランツ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	160千ポット	14,800千円	4戸
重点品目 選定ポイント	丹波篠山市で唯一の花き特産品目である。天候に左右されにくく、多種多様な品目を栽培している。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	180千ポット	4戸（0戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	良品生産技術の向上	① 肥培管理の徹底 ② 親株の適正管理	
	出荷率の向上	① 病害対策の検討 ② 需要にあった品目の生産	

【北淡路農業改良普及センター管内（淡路市）】

品目名	キンセンカ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	950千本	22,100千円	65戸
重点品目 選定ポイント	日本では千葉県の房総半島と淡路島が主産地である。市場からは12月から3月まで欠かせない品目として需要があり、生産拡大の要望もある。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	1,100千本	60戸（10戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	新規栽培者の育成 栽培面積の確保	① 新規栽培者の確保 ② オレンジスターの栽培技術確立 ③ 作付拡大による出荷ロットの確保	
	収益性の拡大	① 出荷規格の見直し ② 共撰出荷等有利販売の推進 ③ 6次産業化（加工品）の検討	

品目名	ハナナ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	560千本	14,200千円	98戸
重点品目 選定ポイント	淡路市の秋冬露地作の代表品目の一つである。黒川ちりめんと江月の2品種で作期を分散している。淡路市の花き生産品目で最も生産農家数が多い。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	620千本	90戸（10戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	新規栽培者の育成 栽培面積の確保	① 新規栽培者の確保 ② 作付拡大による出荷ロットの確保	
	収益性の向上	① 栽培技術体系の検討 ② 共撰出荷等有利販売の推進	

【北・南淡路農業改良普及センター管内（淡路市・南あわじ市）】

品目名	バラ		
現状 (H30年産)	生産量	出荷額	農家戸数
	1,350千本	80,000千円	3戸
重点品目 選定ポイント	淡路島の施設花きの代表品目の一つである。農家戸数は少ないが、一戸あたりの生産規模が大きい。環境複合制御、UV-B防除等先駆的に技術導入を図っている。		
中間目標 (R7年産)	生産量	農家戸数（うち 新規就農者）	
	1,350千本	3戸（0戸）	
目標達成に 向けた 課題と 振興施策	課題	振興施策	
	低コスト・省力化の推進	① 環境複合制御技術の確立 ② 効果的な暖房技術の検討	
	高品質生産の推進	栽培・防除技術の検討	

第7 本計画の推進体制

1 推進会議の開催

令和12年度の目標達成に向けて、本計画に基づく諸施策の実効性を高めるために、推進会議を適宜開催する。

なお、推進会議は「兵庫の花づくり推進協議会幹事会」をもって充てる。

2 「兵庫の花づくり推進協議会」の概要

(1) 目的

花き類の生産振興、流通改善及び消費拡大を図り、本県花き産業の発展向上に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

- ア 花き類の生産振興に関する事項
- イ 流通改善に関する事項
- ウ 消費啓蒙に関する事項
- エ ア～ウにかかる各種研究会、講習会等の開催
- オ 各種情報の収集
- カ 関係官公庁及び団体との連携調整
- キ その他、協議会の目的を達成するために必要な事項

(3) 構成団体（13 団体）

兵庫県、兵庫県花卉協会、公益財団法人兵庫県園芸・公園協会、公益社団法人兵庫みどり公社（令和3年4月から公益社団法人ひょうご農林機構に改称予定）、一般社団法人兵庫県グリーン協会、株式会社 JF 兵庫県生花、株式会社姫路生花卸売市場、兵庫県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会兵庫県本部、兵庫県種苗業組合、花キューピット協同組合 66 兵庫支部、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会兵庫県支部、一般財団法人淡路島くにもみ協会

(4) 事務局

神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課内

参 考 資 料

1 関係機関・団体一覧

団体名	郵便番号	住 所	電 話	F A X
兵庫県花卉協会	650-0011	神戸市中央区下山手通 5-7-18 兵庫県下山手分室 4 階	(078) 361-1605	(078) 361-9134
公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会	673-0847	明石市明石公園 1-27	(078) 912-7620	(078) 913-6620
株式会社 J F 兵庫県生花	658-0023	神戸市東灘区深江浜町 1-1	(078) 451-8920	(078) 451-8976
株式会社 姫路生花卸売市場	671-0231	姫路市御国野町深志野 300	(079) 253-9600	(079) 253-9950
兵庫県農業協同組合 中央会	650-0024	神戸市中央区海岸通 1 兵庫県農業会館内 (営農支援部)	(078) 333-5893	(078) 325-2140
公益社団法人 兵庫みどり公社*	650-0011	神戸市中央区下山手通 5-7-18 (兵庫県下山手分室)	(078) 361-8120	(078) 361-8128
全国農業協同組合連 合会兵庫県本部	651-2145	神戸市西区玉津町居住 88 (園芸部)	(078) 927-0225	(078) 927-8005
兵庫県種苗業組合	651-2113	神戸市西区伊川谷町有瀬 119-16	(078) 977-0530	(078) 977-0531
一般財団法人 淡路島くにうみ協会	656-0022	洲本市海岸通 1-11-1 (記念事業課)	(0799) 24-2001	(0799) 25-2521
一般社団法人 兵庫県グリーン協会	651-1621	神戸市北区淡河町神影 194-2 (事務局)	(078) 950-9250	(078) 950-9251

※ 令和 3 年 4 月から公益社団法人ひょうご農林機構に改称予定

2 各市町花き品評会等一覧

品評会の名称	主催者名
神戸市ゆり立毛共進会	神戸市、兵庫六甲農業協同組合
神戸市山田菊品評会	神戸市、兵庫六甲農業協同組合
伊川花卉品評会	伊川花卉部会、兵庫六甲農業協同組合
兵庫県植木生産協議会ほ場共進会	兵庫県植木生産協議会
伊丹市農産物品評会	伊丹市、兵庫六甲農業協同組合
三木市花き品評会	三木市、三木市園芸組合
丹波花卉品評会	丹波花卉園芸協議会
淡路市花卉立毛品評会	淡路市
淡路市花卉切花品評会	淡路市
淡路農林水産祭	淡路農林水産祭実行委員会
兵庫県宝塚観賞植物品評会	兵庫県、宝塚市、兵庫県花卉協会、 宝塚市花き園芸協会

3 兵庫県花き品評会金賞受賞者一覧（第21回～31回）

回	農林水産大臣賞	生産局長賞	近畿農政局長	兵庫県知事賞	兵庫県議会議長賞
31	高見昌伸 加西市 ハボタン	戸澤清五 淡路市 カーネーション	集堂昭典 淡路市 バラ	杉本隆則 養父市 チェッカーベリー	栗田暖人 淡路市 ストック
				浅井昌透 養父市 フレンチラベンダー	黒田悟 神戸市 ストック
30	河上豊和 淡路市 カーネーション	増田佳紀 加西市 球根ペゴニア	杉本隆則 養父市 チェッカーベリー	高見昌伸 加西市 ハボタン	中尾泰生 南あわじ市 きく
				森井宏紀 神戸市 チューリップ	山本勝昭 淡路市 ストック
29	阪口和義 淡路市 ストック	戸澤清五 淡路市 カーネーション	常深幸子 神戸市 ユリ	杉本隆則 養父市 チェッカーベリー	浅井昌透 養父市 ヒポエステス
				山崎光宣 南あわじ市 きく	谷井貴夫 神戸市 ローダンセマム
28	常深輝夫 神戸市 ユリ	山口浩平 淡路市 カーネーション	浅井崇紀 養父市 オステオスペルマム	久保山久美 宝塚市 ダリア	杉本隆則 養父市 チェッカーベリー
				森井宏紀 神戸市 チューリップ	阪口羽津美 淡路市 ストック
27	高瀬勇太 淡路市 カーネーション	田中博雄 宝塚市 ダリア	増田佳紀 加西市 球根ペゴニア	杉本隆則 養父市 チェッカーベリー	松本吉広 神戸市 ユリ
				三浦崇明 神戸市 オステオスペルマム	森井宏紀 神戸市 チューリップ
26	鷺尾正夫 淡路市 ストック	平岡正彦 淡路市 きく	山口浩平 淡路市 カーネーション	高見大樹 加西市 ルピナス	森井宏紀 神戸市 チューリップ
				杉本隆則 養父市 チェッカーベリー	増田佳紀 加西市 ポインセチア
25	集堂昭典 淡路市 バラ	山上一夫 神戸市 シンテッポウユリ	中尾博文 神戸市 ストック	関岡謙介 豊岡市 ロータス	杉本隆則 養父市 カルーナ
				東野孝 淡路市 カーネーション	高瀬健一 淡路市 カーネーション
24	安賀正明 淡路市 カーネーション	平岡正彦 淡路市 きく	増田佳紀 加西市 球根ペゴニア	関岡謙介 豊岡市 タイム	三井淳男 丹波市 ガーデンクラメン
				鼻町富弘 淡路市 ストック	相良行博 神戸市 チューリップ

回	農林水産大臣賞	生産局長賞	近畿農政局長	兵庫県知事賞	兵庫県議会議長賞
23	中尾泰生 南あわじ市 輪ぎく	岡松和代 淡路市 カーネーション	原俊彦 神戸市 ルピナス	増田佳紀 加西市 ポインセチア	進藤勝信 姫路市 アルテルナンテラ
				阪口博史 淡路市 ストック	森井宏紀 神戸市 チューリップ
22	森久則 淡路市 カーネーション	池本美穂 神戸市 二輪ぎく	山上一夫 神戸市 チューリップ	田中義高 香美町 りんどう	吉田茂雄 多可町 ガーデンクラメン
				鷺尾正夫 淡路市 ストック	杉本隆則 養父市 ザルジャンスキア
21	安賀司 淡路市 カーネーション	藤岡文雄 淡路市 小ぎく	相良行博 神戸市 チューリップ	岩崎茂 相生市 アキランサス	山上一夫 神戸市 シンデッポウユリ
				福田昌宏 南あわじ市 輪ぎく	西浦正敏 佐用町 ニシキギ

4 指導者向け研修会、展示会等

(1) 国際フラワー&プランツ EXPO (IFEX)

- 花き、ガーデニング業界の商談展で、毎年10月に幕張メッセで開催。
- リードエグジビションジャパン株式会社が主催。
- 小売、卸売業者も多数来場のため、生産者ブース確保で商談も可能。

(2) 花流通・生産系セミナー「ブルーミング・フォーラム」

- (社)フラワーソサイエティが主催し、毎年、大阪で開催しているセミナー。
- 団体は、一般の園芸愛好家から学識経験者、生産・流通関係者、関係団体・関係企業等で構成。
- 園芸雑誌要約集(花アブストラクト)の発行事業も実施している。

(3) 花き懇談会セミナー

- 花き懇談会(設立1985年1月13日、事務局:東京農業大学農学部農学科内)が、毎年7月に東京農業大学世田谷キャンパスで開催しているセミナー。
- 団体は、花きにかかわる業界の発展に寄与するため、花きに関心を持つ人や花きを生業とする人で構成し、情報交換、会員の相互研鑽、親睦を図る団体。

(4) ジャパンフラワーセレクション (JFS)

- 「いい花の新基準」を合言葉に、ジャパンフラワーセレクション実行協議会が主催して花きの新品種を評価し、推奨を行う。
- 審査員は国内の花き業界を代表する学識経験者、流通関係者、小売関係者、造園・デザイン関係者などで構成。
- 育成新品種が推奨されれば、業界が選ぶ優れた品種として高い評価を受け、PR効果も高い。
- 出品条件は、①新たに育種開発された品種もしくは新たに導入された品種で未販売もしくは販売開始後約5年以内であること、②日本における商業的な生産・流通・販売が期待されるもの。

(5) フローラルイノベーション

- 新たな付加価値を創出し、花の消費を拡大するための専門展示会。
- 主催は一般社団法人日本能率協会 (JMA) で、一般社団法人日本フローラルマーケティング協会 (JFMA) が共催している。
- 花き業界内の各流通フェーズならびに、気候変動や後継者難等の花き業界全体が抱える問題への対応を考える場を目指している。
- コロナ禍で変化した花のトレンドや、売れる花屋の秘密など、専門家によるセミナーを無料で聴講することができる。

ひょうご花き振興方策

令和3年3月

発行：兵庫県

編集：兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
